

5 まとめ

(1) 評価結果のまとめと今後に向けて

今年度は、第3期基本計画の2年目である平成27年度を対象に、行政評価を実施しました。

昨年度から実施事業の評価と施策の方針の評価を一体的に行う新たな行政評価の方式がスタートし、さらに、今年度の行政評価からの新たな要素として、平成26年度及び平成27年度の経年での比較・考察を行いました。また、平成26年度、平成27年度の鎌倉市民意識調査結果を評価シートに加え、市民の皆様の意向とその意向に対する担当部の分析を評価シート内に加えました。

しかし、平成28年度の評価についても昨年度と同様、評価する部等によって評価に対する理解や解釈に差があり、シートへの記入状況は部等の中で差が見られるなど、市にとっての行政評価の重要性の認識及び庁内の理解が未だに十分でないことがわかりました。

また、スポット評価では、昨年度に引き続き2回目となる公開意見交換会を実施しました。今年度は昨年度の反省点を踏まえ、参加者への当日資料の事前送付による情報提供を行うことで、公開意見交換会に参加された市民の方のより深い理解を促したことや、スムーズな意見交換を可能にしたことなど、運営面での改善を図りました。その一方で昨年度より参加者が減少するなど、開催時期や参加者の募集方法について一部課題を残しました。

このように、昨年度からの継続課題だけでなく、新たな課題が明らかとなった今年度の行政評価ですが、これらの課題の改善に向け、以下に掲げる対応を検討していきたいと考えています。

- * 次年度の評価に向け、評価方法や評価シートのさらなる改善を視野に入れた検討を行います。
- * 職員に対する行政評価研修会等の開催を検討し、改めて評価の目的を再確認するとともに、施策の方針等のレベルにおける進行管理を行う視点を養います。研修実施の際には、具体的な記載例を活用するなど、職員が理解しやすくスキルアップが図れる内容とするよう努めます。
- * 目標管理としての実効性を高めるため、指標等の設定率の向上及び「目標とすべきまちの姿」に近づくための指標の設定に努めます。
- * 次年度評価の開始にあたっては、庁内向け説明会の中で、シートの記載方法だけでなく、評価のねらい、意義、活用方法、指標設定の視点等についての説明を十分に言い、職員のさらなる理解を促すとともに、評価の標準化とレベルアップを図ります。
- * スポット評価の一環である公開意見交換会については、開催時期、参加募集の方法などを改めて検討し、参加する市民を増やし、市の事業の取組及び行政評価への市民の理解を促します。

(2) 評価結果の活用

ア 総合計画基本計画の進行管理

経営企画課においては、評価結果を施策の方針等や実施事業の進行管理に活用し、総合計画基本計画の着実な進捗を図ります。

イ 目標管理に向けたマネジメントサイクルの確立

各課等、各部等においては、行政評価に継続して取り組むことによって、PDCAサイクルを念頭においた事業実施や目標管理に活用するとともに、決算及び包括予算制度における予算編成などの資料として活用し、施策の方針等における目標達成を効率的・効果的に行うための事業構築にも反映することに努めます。

ウ 職員意識の向上

PDCAサイクルを確立することにより、職員に経営感覚を定着させます。さらに、職員の行政評価に対する理解を深めるため、職員研修の内容を充実するなど、引き続き行政評価に取り組む職員の意識の向上につなげます。

また、個々の職員がこの制度を的確に運用することにより、最終的な成果である市民サービスの向上に寄与できるよう、意識の向上を図ります。

(3) 評価結果の公表

行政評価の結果（本報告書含）については、市ホームページで公表します。

また、本評価結果報告書については、経営企画課において配布するほか、情報資料コーナー等での閲覧により、広く市民に公表します。

これらを通じて多くの方に評価結果の周知を図ります。